

中山間地域道路等維持補修業務委託モデル事業検討会 vol.3

平成 25 年 2 月 12 日（火）に第 3 回中山間地域道路等維持補修業務委託モデル事業検討会が開催され、モデル事業の評価に向けた行った道路利用者アンケートや建設企業モニタリングの調査結果に基づいて、モデル事業の評価や今後の課題、改善点について話し合われました。

●第 3 回中山間地域道路等維持補修業務委託モデル事業検討会の開催概要

＜日 時＞ 平成 25 年 2 月 12 日（火） 13：30～15：00

＜場 所＞ ふくしま中町会館 6 階 特別会議室

＜参加者＞ 検討会委員、検討会事務局など計 16 名

＜議 題＞

- ・第 2 回検討会の内容と主な意見について
- ・本検討会の位置付けと検討内容について
- ・モデル事業の評価に向けた調査結果
道路利用者アンケート 建設企業モニタリング
- ・モデル事業の評価
- ・モデル事業の課題、改善点の把握
- ・まとめ
- ・今後さらに検討すべき課題

検討会の様子



●第 3 回検討会の位置付け

第 1 回モデル事業検討会

（平成 24 年 7 月 11 日）

- ・検討会設立
- ・宮下地区の現状
- ・モデル事業の概要

第 2 回モデル事業検討会

（平成 24 年 10 月 12 日）

- ・モデル事業の評価に向けた調査手法の決定
- ・宮下地区での実績を比較検討する項目の決定

第 3 回モデル事業検討会

（平成 25 年 2 月 12 日）

- ・調査結果の整理と評価
- ・モデル事業改善点の把握
- ・まとめ

●検討会で委員の方からいただいた主な御意見

1. モデル事業の評価に向けた調査結果について

- ・地元企業はごみ処理等のマナーが良い。この点もアンケートの色々な項目において地元企業が良いという評価に繋がっていると思う。またモデル事業を推進してほしいという希望が、アンケート結果に表れていると思う。
- ・モデル事業が、雇用や従業員教育に与える直接的な影響は少ないが、経営者の意欲がどのように変わっていくのか、モデル事業の効果がどのように波及していくのかを今後みていきたいと思う。
- ・アンケートを行う事で住民が建設業者の行っている事を知り、色々な事に気づき、不満だけでなくニーズも挙がって将来に繋がっていく。
- ・アンケート結果を建設業者と住民にフィードバックしていく必要がある。地元企業は地域住民の事を考えて作業を行っており、住民はそのことに対して感謝している点など、お互いを理解できるような仕組みがあれば良い。
- ・企業 10 社の内 6 社が、雇用や人材育成の点で将来的に影響があるとしているので、経営者に対して間接的な影響を与えていると思われる。
- ・「組合が維持管理を行っていることを知っている」が 67%。「知っている」という事が重要であり、その人達が好評価を行っている。地元業者にやってもらっている点が安心感に繋がっているといえる。

検討会の様子



2. モデル事業の評価について

- ・実績指標と将来指標を区別して評価する必要がある。緊急時に企業が相互支援を行った点は実績ベースでの評価。将来的な経営計画に影響があるという点はそこに繋がっていく可能性があるという期待値ベースの評価。
- ・道路利用者の評価において、除雪の技術力や緊急時の機動力などについて、少数ではあるが悪い方の評価が出されている。今後どう改善していくのかが課題になる。
- ・モデル事業導入前と導入後で比較できる資料があればよりよい評価ができた。地域によっては倒産した企業もあったので、従来方式のままでは色々な問題が起こった可能性がある。モデル事業を導入することで未然に対処できたのではないかなと思う。
- ・新潟福島豪雨災害のような緊急時に一般の入札手続きを行っていたのでは対応ができなかった。企業がお互いに協力し合って大規模災害に対処できたので、補完力や機動力という点での評価は高いと思う。
- ・モデル事業において一番評価できる点は補完力なので、その点を強調したい。
- ・契約方法など、従来方式での対応の限界がモデル事業導入後に改善されたりしている。発注者側でしか評価できない点もあると思うので行政側の考察として付け加えた方が良い。
- ・宮下地区と他の中山間地域では建設業界の体質や企業の考え方などが異なる。宮下地区は企業間のコミュニケーションがとれておりまとまりのある点など、モデル事業が機能する土壌があった。他地域でこのモデル事業をこのまま実行することは難しい。
- ・競争性と効率性・効果性を考えた場合に、競争する部分と協力する部分の線引きをこのモデル事業を通してできるようになると他の地域への応用が可能になると思う。
- ・資料に記載されているモデル事業の評価は、概ね妥当であると思う。

3. モデル事業の課題、改善点の把握について

- ・競争性に変わる市場環境が必要である。また企業が受託責任を果たしているのかを評価できるような第三者機関を作り定期的な評価を行うことで、経営者の意識や会社そのものの意識を高めることができる。一方で競争性による効率性のメリットもあるので兼ね合いを検討する必要がある。
- ・企業と地域住民の中でお互いに信頼関係（トラスト）ができあがると、さらに企業は成長できる。モデル事業は将来的にそれができる可能性があるので、分析視点も含めて検討したい。
- ・公募型プロポーザル方式において1社のみの応募であるが、その1社が色々な条件をクリアしているので業務を行っている点を公表しないと、県民から理解を得られないのではないかな
- ・業者が自分たちの行っている作業についての情報発信をしていくべき。
- ・①競争性に変わる市場環境の必要性に対する改善策〔第三者機関による評価〕
②道路利用者の補修要望に対する改善策〔H25重点項目に設定〕
③事業量総量の増加に対する改善策〔複数年契約の実施（第1回検討会委員意見）〕
④認知度の向上のための改善策〔ニックネームの作成等〕
について、各委員より了承を得た。

4. まとめについて

- ・モデル事業は、課題は色々あるが総括的に良い事業といえる。
- ・協同組合が受注するという形は、災害の緊急時における対応の面において非常に優れており、倒産などがあつた場合も同じ事がいえる。総括として試行から本格実施に移行すると結論づけても良いと思う。

5. 今後のさらに検討すべき課題及びその他全般的な意見について

- ・モデル事業そのものの金額的な適正規模や業務の適正範囲、適正期間等をしっかりと検討する事が先決。
- ・道路を維持管理していき、住民サービスの低下を招かないようにするにはオペレーターの育成が急務。
- ・地域の公共事業は、地域の企業が請け負うべき。宮下地区で発生した大規模な工事も地元企業がやっていけるようになる必要があり、その実現のためには組合の業務が維持管理だけにとどまらないほうが良い。
- ・土木技術者の維持については、配置技術者の要件についてルールを緩和することも検討すると良い。モデル事業をより機能アップし効果的なものとするための視点を、検討会として挙げていくべきだと思う。
- ・地域を担う子供達が将来建設業の仕事に就きたいと思えるように、熟練した技術・経験を持っている人のすばらしさや、自分達の地域を、自分達の地域の人達が守っているという実感が伝わると良い。